㈱ポンパドウル

代表取締役社長　三藤　達男　氏
神奈川県横浜市中区元町4・158・1

島井宗室（しまいそうしつ）は秀吉から「武士にならぬか」と問われて「我が望みは玄海灘一帯」と答えた海の大名たる海商。専制君主の秀吉の権威に対して、いささかも屈しない博多の豪商の壮大な気性と、市民としての自負、たくましい反骨精神をもっていた稀代の戦国商人である。

横浜・元町に生まれた本場仕込みの焼き立てパンは、今や全国区のブランドとして親しまれている。業界にも決して引けを取らない職人技術と感性と豊富なラインナップは、まさしく宗室が如き壮大な気性のたゆまぬ研究心のなせるところだ。「ポンパドウル・レッド」のパッケージが、全国の街々で涼やかに揺れている。

㈱JMC

代表取締役会長兼社長　香月　誠一　氏
東京都目黒区中目黒1・8・8

今井宗久（いまいそうきゅう）は信長の勢力強大化とともに自身も大きく飛躍した辣腕政商。裸一貫から身を起こして堺会合衆の仲間入りを果たし、いち早く信長の将来性に賭けた。信長は堺衆を統率して、織田軍団の軍需物資供給の中心的商人に宗久を指名、その後の栄華に直結する。

学校教育市場に特化した専門企業。「教育専用クラウドand'T」を複数自治体で共用するコミュニティクラウドとして、「学校情報セキュリティ支援ツールHardlockey」をより強固な個人認証システムとして、新しい学びの環境にフィットするサービス作りに余念がない。教育現場に長年の実績とノウハウが活かされている。

ベストパック㈱

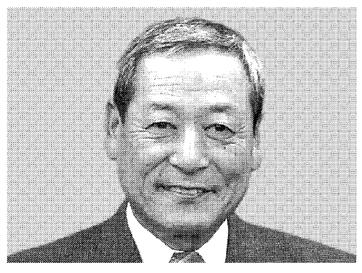
代表取締役　荻上　穣　氏
東京都千代田区岩本町2・4・3

徳川家康（とくがわいえやす）は必勝においては信長、秀吉に譲るところがあったが、不敗において両者を凌いだ。「我いまだ志を得ざるとき忍耐の二字を守れり、我まさに志を得んとするとき、大胆不敵の四字を守れり、我まさに志を得たる後は油断大敵の四字を守れり」はその真髄。

食品包装資材、食肉包装資材、BPVACシステム、包装機…など、食の安全を守る〝包装〟の業界第一人者。昭和54年の設立以来、常に先進の製品と技術を追求し海外展示会協催や各産業展に積極出展してきた。経営も地味堅実を貫き、社員一人ひとりが〝包装のプロ〟として、取引先から信頼される「不敗の営業」に余念ない。

㈱丸辰道路工業

代表取締役社長　小林　俊夫　氏
東京都品川区西中延1・9・4

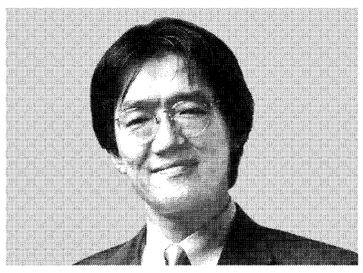


織田信長（おだのぶなが）は実力をもって天下人となった。その実力とは財力と戦力と大義名分である。このうち財力と戦力を備え持つ武将は多くいた。浅井、朝倉も、上杉、武田もそれだ。ただ大義名分において信長以上の者はいなかった。〝天下布武〟の明確な指針が真骨頂である。

アスファルト・コンクリート切断、コンクリート目地切・床板切断、コア採取及び穿孔等、安全で美しく堅牢な道路を目指し、日々高度な技術開発を進めている業界屈指の先覚企業。ドライロードソー工法、コンクリートカッター工法をはじめ、多くの新工法で業界を牽引し、天下布武が如きの気概と伸展だ。

㈱エフビーアイ・コミュニケーションズ

代表取締役　福田　光洋　氏
東京都渋谷区神宮前2・26・8



奥山朝利（おくやまともとし）は井伊家の安泰と領民の生活安定をひたすら願った忠臣。自らの信念に基き、正当性を主張したゆえに強国今川家に対しても弱腰にならず、策略を巡らせた。桶狭間の戦いでは先鋒武将として先陣を切り、今川勢敗色濃厚の中でも奮戦し続けた闘将だ。

多言語展開、IRの重要性、新しいコミュニケーション・ツールの開発など、常に革新的なコミュニケーションの形を追求してきた俊才。社会に役立つ企業であり続けることを念頭に、社員一人ひとりが世の中の流れとニーズを感知し研鑽に余念がない。人と企業と社会を結ぶコミュニケーションの推進役だ。

㈱新光電気

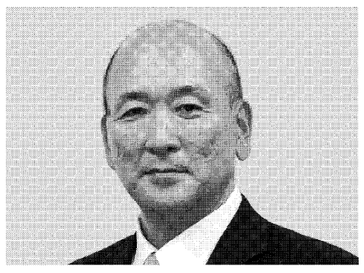
代表取締役社長　花村　明広　氏
東京都千代田区外神田4・11・2

太原雪斎（たいげんせっさい）は、軍師として今川家の全盛期を築きあげた。義元から絶大な信頼を寄せられ、領国経営から外交、人材教育まで、豊富な知識と知略を駆使して今川家の発展に尽くした。家康の才覚を見込み、人間教育、兵法、軍学までを指導したのも雪斎である。

創業から70年の節を刻んだひかり業界の才覚企業。光学機器用ランプからスタジオ照明用ランプ、LEDランプ・LED直管蛍光灯、一般・店舗照明ランプ、水・空気・表面殺菌ランプ等まで、あらゆる〝ひかり〟のコーディネーターとして、幅広い取引先から厚い信頼を培っている。豊富な知識の人材が強みだ。

㈱トライサーブ

代表取締役　庄司　文明　氏
東京都豊島区西池袋1・18・2



千利休（せんのりきゅう）は秀吉の来訪とあって、弟子たちが総出で塵芥（ちりあくた）ひとつない庭を整備したとき、庭に足を踏み入れ一本の木を揺すった。綺麗な庭にハラハラと葉がこぼれ落ち、何とも言えぬ風情となった。そのバランスの調和こそ、利休の目指した〝侘び茶〟の真骨頂である。

あらゆる環境のシステム開発等を行う「ITソリューション」と各種インフラ構築等を行う「IT基盤サービス」を事業の核として、ITビジネスを展開。各種システム開発から運用・保守、効率化や利便性を高めるための改善点を提案するなど、一連サービスが信頼の基盤だ。求められている技術プラス人間関係の絆の強さも流儀の根幹。

㈱マリノ

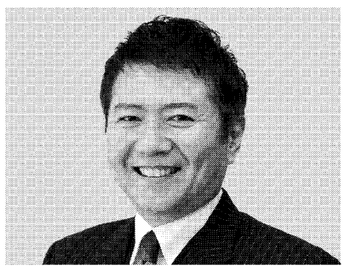
代表取締役　伊藤　裕昭　氏
神奈川県横浜市港北区新横浜2・2・8

成瀬正成（なるせまさなり）は十七歳で長久手の合戦に出陣。兜首を一つ挙げて持ち帰ったが、味方の形勢不利と見るや再び修羅場へと身を投げ出し、さらに大きな軍功を挙げた。この働きを家康は褒め、十七歳の若武者を一軍の将に取り立てた。後に尾張徳川家の重鎮となった俊才。

ソフトウェアプロダクト、インフラシステム、ソリューションという三つの事業を主軸として、幅広い実績とノウハウを蓄積。平成6年の設立以来、地味ながらコツコツと歩を進めて20余年の業界中堅となった。大企業にはできない小回りの効く体制と、全社員が心を通わせていい意味での家族経営が根幹だ。

JAPAN プレミアツアー

CEO　山本　浩史　氏
東京都中央区八重洲2・10・8



細川幽斎（ほそかわゆうさい）は多芸に秀でて、取り分け歌道には一流だった文武両道の極めつけ知将。はじめ足利義昭の側近だったが信長と出会い、本能寺の変の時には娘婿の光秀を捨てて秀吉につき、秀吉の死後は家康から重用された。その先見力、人物観が細川家の原点である。

世界の街と文化に精通し、加えて密度の高いヒューマンネットワークを駆使して、大手旅行代理店とはひと味違った究極の旅を演出。国内、海外を問わず、その企画力、実践力が好評だ。社内研修旅行からインバウンド（メディカルツアー）まで、多彩なカリキュラムと懇切丁寧なコンサルティングに信頼の声が厚い。

㈱アンゼロ

代表取締役　土井　明美　氏
東京都中央区八重洲2・10・8

阿茶局（あちゃのつぼね）は幕閣並みの政治力を駆使した家康の側室。物怖じしない、弁舌さわやかで世話好きな、控え目な他の側室に比べ型破りな性格だった。最初の嫁ぎ先、神尾忠重は今川義元の家臣で、家康が人質時代顔見知りであり、家康にはかけがえのない大側近だった。

企業の社外人事部として人材の採用から教育まで、キメ細かな気配りサービスとプロフェッショナルならではのアドバイスの提供により関係各先からの信頼も厚い。一歩ずつ前進し、そのプロセスを楽しみながら10を目指し0から1を生み出して欲しい…という思いをこめてアンゼロと名付けた信念が清々しい。

㈱アスシア

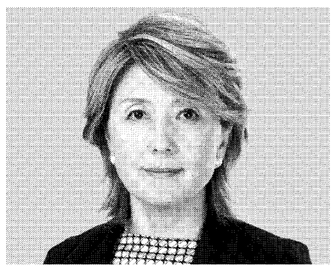
代表取締役　野口　直康　氏
東京都港区新橋6・5・4

佐々成政（さっさなりまさ）は信長直属黒母衣衆の頭領で、世に名高い織田軍団鉄砲隊の隊長でもあった。いち早く信長が採用して組織した鉄砲隊を率いて目覚ましい戦果を挙げた最初の武将でもある。そのため野戦に弱い尾張勢は次第に最強軍団として勇名を馳せるようになった。

不動産購入・売却の頼れるパートナー。「明日の幸せ」を語源とする社名に込められた思いを忘れることなく、一人ひとりの顧客に懇切丁寧に提言している。不動産は一生の買い物だけに、その業者選びは慎重になるのも当然だ。情報収集力、交渉力、人間性、何年後も相談できる信頼性、どれを取っても評価高い。

プレミアムサーチ㈱

代表取締役　浦野デービス　忍　氏
東京都千代田区一番町11・1



由布姫（ゆうひめ）または湖衣姫（こいひめ）とも称される諏訪御料人は、信濃の名家諏訪氏の娘で近隣に聞こえた美形。武田信玄によって諏訪氏は滅ぼされ、信玄の側室にされてしまう。山本勘助に「諏訪家の旧臣も喜び、男子誕生なら家も再興できる」と諭され、武田勝頼を産んだ。

日系と外資系の金融機関（銀行、証券、投資顧問、保険会社その他金融関連サービス業）を主なクライエントとするサーチファーム。一人ひとりの「個人の能力と無限の可能性を追求」、企業に対し「適材適所により優秀な人材確保によるビジネスの活性化」を基本理念に、豊かな感性とグローバルネットワークで信頼が厚い。

㈲トロフィー佐藤

代表取締役社長　佐藤　健志　氏
東京都墨田区東駒形1・5・5

山本勘助（やまもとかんすけ）は信玄の武将としての器量に惚れ込み仕官。長きに亘り諸国を遍歴して会得した軍略や築城術等、豊富な兵法の知識を認められ以後、信玄の懐刀として武田軍団の中枢を占めた。合戦の作戦を立てるだけでなく謀略にも優れ、戦わずして数々の勝利を得た。

楯、額縁、トロフィー、銀製品、クリスタル等、表彰グッズと記念品の名軍師。多様なニーズに合わせて、優勝やお祝いの感動を形にする作戦参謀だ。1961年の創業以来、美しいデザインのトロフィーを企画・商品化した業界第一人者としての信頼性も高い。「次世代を担う企業を応援することで、日本の活性化を実現」が志。

㈱ギンレイサービス

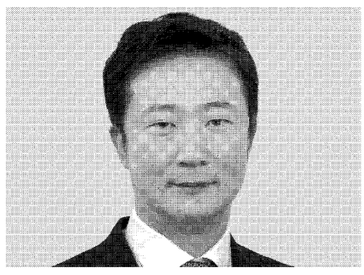
代表取締役　歌井　宣幸　氏
東京都中央区銀座4・14・6

柴田勝家（しばたかついえ）は勇猛果敢な豪将であり、織田家筆頭家老。六角氏と戦って長光寺城に籠城した際、飲料水を貯えた水瓶（みずがめ）をたたき割って決死の覚悟を示したことから「瓶割り柴田」の異名を取った。秀吉と相容れず北ノ庄に果てるが武勇ひとすじの好漢だった。

仕出し弁当の定番ブランドとして人気が高い『銀座 萌黄亭』を運営。冷凍軽貨物運送事業を起点に発足した企業だけに、行き届いた衛生管理には定評のあるところだ。食材の吟味、洗練された調理技術、細やかなアフターサービスなど、イベント・学会・セミナー・研修・歓送迎会…、人が集まるところ同社の真価が輝く。

関東食糧㈱

代表取締役社長　臼田　真一朗　氏
埼玉県桶川市大字川田谷2459・1

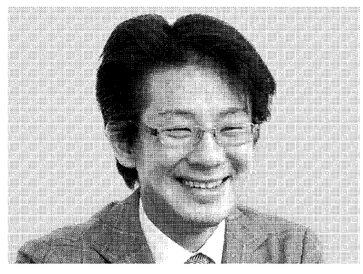


岡崎信康（おかざきのぶやす）は摩利支天の再来と言われ、父の徳川家康をも凌ぐ大器として徳川譜代重臣団から期待されていた。が「今川の血をひく信康が、義元を討った織田に報復する日が来るかも知れぬ。その時、信忠では互角に戦えまい」と信長から恐れられたほどの器量人だ。

業務用食品卸業で「埼玉県シェア首位」の自他ともに認める実力派企業。地域に密着し、地域で獲れた新鮮な食材を地域の料飲店で食べてもらう〝地産地消〟の牽引者でもある。一般食材だけでなく肉、魚、野菜などの冷凍素材、酒、高級和洋食材、食器、厨房機器まで、扱い商品は6万アイテム以上、『人源』を基幹とする器量人だ。

経理の特命レスキュー隊㈱

代表取締役　冨松　壱　氏
東京都江東区富岡1・26・15



毛利新介（もうりしんすけ）は桶狭間で今川義元を打ち取った功によって、信長の親衛隊黒母衣衆に加えられた。母衣衆は馬廻組の中から、特に戦功のあった者が選ばれる将校である。信長軍団の拡大とともに、新介は側近としての地位を固め、本能寺の変でもひときわ奮戦した。

経理に特化して企業の懐に入り込み、その効率化、正確さによって側近に重用されている。若く明るく元気な隊員が揃っており、他社にないサービスラインナップ（経理丸投げ、スーパー派遣、経理課長代行、会社設立）で業績も上昇著しい。平成15年の事業開始時から20年後のビジョンを定め、今着実に伸展中だ。

㈱製麺の匠 大黒屋

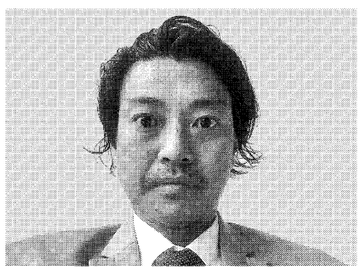
代表取締役　津田　優人　氏
川崎市高津区久地2・16・12

小西行長（こにしゆきなが）は堺の薬種問屋の後継ぎだったが、その才智と度量を秀吉に買われて出仕。加藤清正や福島正則らの子飼い武闘派とは一線を画して、石田三成らとともに天下人となった秀吉を〝知〟で支えた。商人出身らしく算術にも長け、豊臣の財政の根幹を成していた。

行列のできるラーメン屋さんを高品質な中華麺で支えるラーメン店専門の製麺所。その自信作〝真空卵麺〟は新鮮な生卵をふんだんに使用した名品だ。一般的に使われる全卵粉や加工液卵の中華麺と比べて、衛生的に取扱いが極めて困難な生卵を敢えて使用するこだわりこそ、各取引店からの圧倒的支持の所以である。

㈱ノットグローバルホールディングス

代表取締役　松澤　崇光　氏
東京都渋谷区円山町28・3

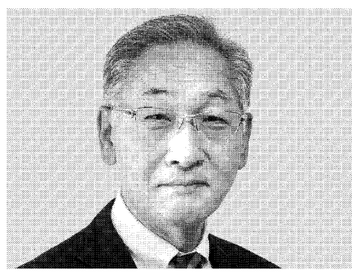


築田政綱（やなだまさつな）は桶狭間の大勝利の後、信長から一番槍をつけた服部小平太、首をあげた毛利新介を差し置き、「勲功一番なり」と褒められた探索役。その後、浅井長政に叛かれて信長が絶対絶命の窮地に陥った時も、敵中の間道を冷静沈着に先導して駆け抜けている。

乗用車から特殊車両まで、ワンストップサービスを提供。輸送通関、梱包、コンテナ詰め、海上・航空輸送、海上保険付保、輸入地での輸入通関、一時保管、検疫、開梱などまで、企業、個人を問わず、あらゆる車両輸送のニーズに幅広く応えている。また海外へ移住、留学予定者の中古車輸送、海外引越貨物でも実績は豊富だ。

フレックシステムズ㈱

代表取締役　笹川　廣太郎　氏
東京都千代田区岩本町1・4・4

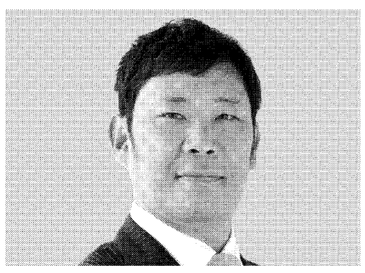


斎藤道三（さいとうどうさん）は僧、商、武と三つの道を歩いてきた身をもじって道三と名乗った稀代の傑物。日本で初めて天守閣を設けた稲葉山城に居城、楽市楽座や領民のための薬草園など、剛腕ゆえにまむしと呼ばれたが当時美濃は京に次ぎ繁昌した町だと他国でも評判となった。

ユーザー企業の潜在的なニーズを見つけ、具体的ソリューションを提案し、解決に導く。そうした三つの課程から、真のプロフェッショナルと評価されている。システム開発、運用サービスという現代の知略を駆使した傑物企業だ。確かな技術力と高いサービス力、そして柔軟な対応力こそ、成長の機軸である。

㈱J.C.O.S

代表取締役社長　松本　健　氏
東京都港区北青山2・9・5



柿崎景家（かきざきかげいえ）は越後第一の将。謙信、信玄の一騎打ち伝説で名高い永禄四年の川中島大激戦の際も、先陣を命じられて妻女山を一気に駆け下り八幡原の信玄本陣に攻めかかった。その緒戦における景家の働きは目覚ましく、景家の豪剣は武田方諸将からも称賛された。

通信と物流のハイブリッド企業として勇名を馳せ、その基盤を土台に深化しながら新たな領域へと進化し続けている。自社ブランドである『ZERO1引越センター』では、インターネットと引越を同時に行うビジネスモデルを立案し、業界の牽引役となった。さらに未来に向けて時代の要求の最先端を疾駆する。